

モリアオガエル *Rhacophorus arboreus* (Okada et Kawano)

【選定理由】

本県ではもともと三河山間部でのみ確認されており、県内における分布域は狭い。これに加え、繁殖池の護岸管理、水田環境の変化など繁殖水辺環境の悪化のため、影響を被っている。このため、将来絶滅危惧種に移行する可能性がある。

【形態】

体は比較的大きく、体長は雄で40~60 mm、雌で60~80 mm程度。指端に吸盤を持つ。指間、趾間のみずかきは比較的良好に発達する。背表の皮膚は鮫肌状で細かい顆粒に覆われる。背面は黄緑色から暗褐色で、不規則な褐色斑紋を持つ個体もある。



豊田市 (旧下山村) , 2015年6月24日, 島田知彦 撮影

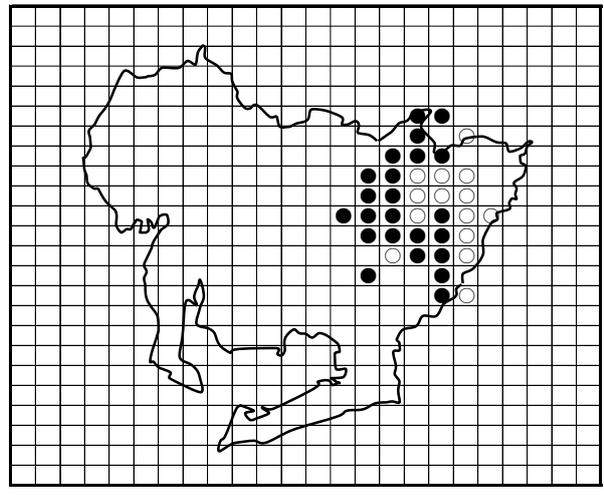
【分布の概要】

日本固有種。本州及び佐渡島に分布する。県内では北設楽郡、新城市、豊田市東部 (旧稲武町、旧足助町、旧下山村)、岡崎市東部 (旧額田町) など、三河山間部で見られる。

【生息地の環境／生態的特性】

成体は森林に生息し、繁殖は、池沼、湿地、山に接する水田などで行われる。県下の繁殖期は5月から7月で、雄はカララ・・・コロロ・・・、等と聞こえる繁殖音を発する。産卵時には雌雄が抱接し、水上に突き出た樹木の枝や葉、草の上などで、2時間ほどかけてクリーム状の泡巣に包まれた卵塊を産む。雌1個体と抱接する雄は複数のこともある。孵化した幼生は、下の止水に落下するか、近くの止水に流れ出てそこで生活する。変態は8~9月に行われる。変態後の幼体は樹林地で生活するが、その生態はよく分かっていない。冬眠は浅い土中、コケの下など地中で行われる。

県内分布図



【現在の生息状況／減少の要因】

環境条件のよい池では多くの卵塊が集中するが、山中の池でも周囲の護岸が完成し、周囲が開放空間となった公園のような場所では生息密度が低くなっている。水田では周囲に産卵に適した樹木がないことも多く、畦道などの地上に産卵された結果、踏みつけや草刈り作業によって卵が死亡する事例も少なくない。

【保全上の留意点】

産卵場所の樹木や水環境の保全に留意するとともに、繁殖場の周囲の森林環境を良好な状態に維持する必要がある。

【特記事項】

北設楽郡津具村 (現設楽町) で村指定天然記念物に指定されていた。

(島田知彦)